
バカとテストと召喚獣

黒龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣

【Nコード】

N4331Z

【作者名】

黒龍

【あらすじ】

天才・努力家の頂点にあるAクラス。そんなAクラスの代表になった黒崎明。FクラスやCクラスとの試験召喚戦争の時彼の真の才能が開花する。

プロローグ

文月学園校門

「西村先生、おはようございます」

「おはよう、黒崎」

学校に行く和生活指導の西村先生が門の中で立っていた。西村先生は一部の生徒から『鉄人』と呼ばれていてその理由が趣味のトリアスロンからだ。

「ほれ、試験の結果だ」

「どうも」

俺は西村先生から封筒を貰い中身を確認した。中には紙が一枚入っ
つていてこう示されている。

『黒崎 明 Aクラス（代表）』

「当然と言えば当然の結果だな」

「そんなことないです。これも西村先生達の指導のおかげです」

「お前のその心意気の1%でもあのバカ共になればな」

「吉井明久と坂本雄二ですか」

「知っていたか」

「知っているも何も、一人は学園初の観察処分者。もう一人は昔神童とよばれた不良。毎日飽きずに暴れていれば嫌でも名前を覚えますよ」

その後、俺はAクラスの教室に向った。

主人公紹介

黒崎 明 17歳

身長 177cm

体重 68kg

趣味 音楽・映画鑑賞 プログラミング 読書（歴史もののみ）

得意科目 数学 日本史 世界史 古典

苦手科目 英語 現国

容姿 黒髪で短髪。吉井玲を男して髪をツンツンにした感じ。休日とかはメガネを掛けている。一人称俺

頼まれ事には『無理』と答えられる派であるが、あるていどなんでもできるのでよっぽどじゃない限り断らない。自分が認めたもしくは仲良くなった人には優しいがそれ以外のは厳しい。だから、明久や雄二、Fクラスのメンバーは嫌いである。

召喚獣

黒のジーパンに黒のノースリーブ。F eのアチャー（黒）の格好。

武器 夫婦剣 干将・莫耶（理数系） 日本刀（文系）

腕輪 雷光の腕輪 20点を使って超電磁砲レールガンを発射する。

Aクラス（前書き）

問題

『調理の為に鍋を製作する際、重量の軽いマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。この時の問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例を挙げなさい』

姫路瑞希

『問題点：マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応するため危険であるという点。』

合金例：ジェラルミン』

教師のコメント

正解です。合金なので『鉄』では駄目という引っ掛け問題なのですが、姫路さんは引っ掛かりませんでしたね。

黒崎明

『合金例：ステンレス鋼』

なおジェラルミンの場合水、特に海水に対する耐食性に問題があるため不適切である。

教師のコメント

さすがですね。ジェラルミンと書いても丸にしているので黒崎君には+1点追加しときます。

木下秀吉

『例：鉄』

教師のコメント

みごとに引っ掛かりましたね。問題を最後まで読みましよう

吉井明久

『ガンダニウム合金』

教師のコメント

先生もガンダムWは好きですよ。

Aクラス

） 明 ）

「おおくくすげえくく」

西村先生と別れたあと、俺はAクラスへと向った。さすがAクラスだけあって教室の中は全て最新のものばかり。ノートパソコンに個人エアコン、冷蔵庫。そして教卓の後ろには大型プラズマディスプレイとは恐れ入ったな。

「それで、俺の席は……」

自分の席を探してみると中央の前から三列目の場所にありなかなか良席だった。机の下に鞆を置きパソコンを立ち上げて作業開始。

・
・
・

「あれ???アッキー」

プログラミングをしていると後ろから聞き覚えのある声が聞こえたので作業をやめて振り向いてみいてみるとうすい緑色をしたショートカットの女の子がいた。

「おはよう、工藤」

「おはよう。アッキーもAクラスなんだ」

「ついでに代表だ」

「そうなんだあ〜。それで、何してるの??もしかして、言ってくれたらボクが実技してあげるのに」

「何を勘違いしてるんだ。これは自己紹介のときに皆に書いてもらおうとしているプログラミングだ」

こいつは工藤愛子。去年の終わりごろに転校してきた。たまたま俺の隣に座ったため先生が面倒を見てやれと言われたから色々話しているうちに仲良くなった。俺の数少ない友達の一人だ。

「相変わらずすごいね」

「そんなことはないぞ。これなんて簡単なもんだ。春休みの間はRPGゲームを作ったが、そっちの方がこれの何倍も難しいぞ。戦い方からストーリーまですべて一人で作ったから・・・」

「も、もう。いいよ」

「そうか。よかつたらそのゲームのソフトがこれだからやってみてくれないか??第三者の感想と聞きたいし」

「いいよ。アッキーが作ったゲームだからハズレがないから」

工藤は俺からソフトを受け取ると鞆の中に入れチャイムがなるまで他愛も無い話を続けた。もちろんプログラミングは終わらせた。

「皆さん進級おめでとうございます。このAクラスを担当します高橋洋子です。何か設備に不備がありましたら言ってください。申請しますので・・・無いようですね。なら、クラス代表の黒崎君前に」

「はい」

ざわざわ

クラス中からざわめき声が聞こえる。それもそうか、去年はずっと霧島翔子がトツプだったからな。

「クラス代表の黒崎明だ。とりあえず皆にはこれをやってみらう」
さつき作った自己紹介のデータを全員のパソコンに送る。

「これは見ての通り紹介書だ。そこに自分のプロフィールを書いて自己紹介してくれ。これは皆の得意科目と苦手科目を知るためだからいやなら書かなくていい」

俺がそう言うと皆カタカタとプロフィールを書いっていった。

8

「すみません、高橋先生。勝手なことをして」

「別にいいですよ。皆さんの自己紹介はしてもらって予定でしたし、代表の貴方が必要と思ってやったのでしたら私からなにも言いません。その代わり確りと皆さんをまとめるのですよ」

「はい」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4331z/>

バカとテストと召喚獣

2011年12月17日12時08分発行